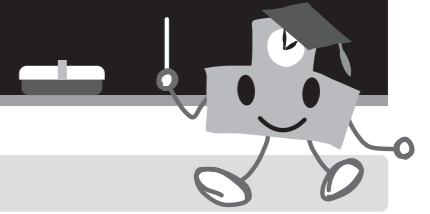


小学校の事例 豊平区 月寒小学校

# リサイクル委員会による環境活動を全校生徒にPR。ゲームを交えた説明で、環境を守る心を広める。

5・6年生により構成されるリサイクル委員会では、リングプルとペットボトルキャップの回収を行っている。活動を広げるため、クイズ等を交えて工夫し全校生徒に活動をPRしている。



## 内容 「わくわく集会」で環境活動をPR

リサイクル委員会は「学校をより良くするために、リサイクルを中心に全校児童に発信していこう」という目的で設置された5・6年生により構成されている委員会である。

本校では5年前から、このリサイクル委員会が中心となって、リングプルとペットボトルキャップの回収を行っている。全学級に回収箱を設置し、毎週火曜日に委員がクラスをまわって回収。委員会の時間にまとめている。ペットボトルキャップについては、各クラスにキャップが約800個入る容器があり、「800個を目指そう!」と具体的な数字を回収目標として取組んでいる。

また、リサイクル委員会では、全校集会である「わくわく集会」にて活動をPRしている。これは高学年5～6

年の児童によって行われているさまざまな児童委員会の内容や取組を紹介する集会で、毎年12月に開催。リサイクル委員会はこの集会の中で、「リングプル収集の〇×クイズ」「重さあて」などを行い、低・中学年にも回収活動に興味をもってもらえるよう働きかけている。

集めたリングプル、ペットボトルキャップの重さと数量が発表されると低学年の子供たちからは驚きの声があがった。上級生の説明を熱心に聞き、改めて環境の事を考えるきっかけとなっている。

このほか、学校で掃除をする際に出る「ごみの分別」についても、低学年にもわかるように「紙・ごみ・プラ」それぞれのサンプルを提示しながら分かりやすく説明を行うという活動を行っている。

の時間を使って、各委員会の活動内容を校内テレビで放送することも検討したい。

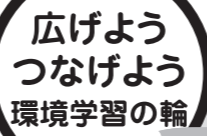


わくわく集会のようす

## 今後 高学年の子どもによる活動を低・中学年の子どもにも広げるために

5・6年生は自分たちが中心になって取組むとともに、低・中学年の児童でも分かるようにPRする方法を一生懸命考え、積極的に行動を起こしている。また、毎週自分たちの手で回収することによって活動の成果を目にすることができ、人の役に立っている実感がわくようである。

今後は、1～4年生の児童が高学年の活動内容を実際に「見て、知る」事ができるように工夫したいが、委員会活動にあてられる時間が少ないのも現状である。給食時間の校内放送



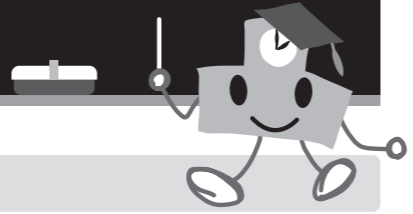
実施校からメッセージ

現在、学校だよりで児童のリングプルとペットボトルキャップの回収活動を知った保護者の方が、学校に持参してくれています。今後は学校と保護者だけではなく地域にもこの活動を広げて取組んでいきたいと考えています。

小学校の事例 白石区 東橋小学校

# 牛乳パック回収の資金で花の種を購入。資金や資源のサイクルを体験し、児童会活動が盛んに。

児童会による牛乳パックやリングプル、ペットボトルキャップの収集。その収益によって購入した種から育てた花を学校のまわりに植える取組。回収を体験することで次の活動へとつながり児童の意欲が増し活発な活動へと発展。



## 内容 学校新聞作成などで 誇りと責任感が向上

本校では平成22年度、児童会による「環境委員会」が発足し、活動を始めた。玄関前や広場の花壇を種から育てた花で飾る美化活動や、牛乳パックのリサイクル、リングプルやペットボトルキャップの回収を行っている。

平成22年度は、自分たちが努力して牛乳パックを回収し、その収益でペチュニアやベコニアなどの苗を購入し、玄関前の花壇で栽培した。児童が主体となって、花の種類を決めたり、活動のようすを紹介する校内新聞を作って全校児童に知らせる取組を展開している。こういったつながりのある体験が「自分でやる!」という意識や誇りにつながり、そこに責任感が生まれる。

普段からその活動を身近で見ている低学年(特に児童会活動を翌年に控える児童)は、「今度は自分が

参加したい!」と興味や関心をもつようになり、児童会活動への積極的な参加が見込まれている。



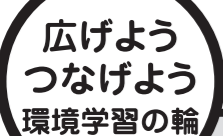
収集した牛乳パック

## 今後 環境活動の体験を日常の行動につなげる

児童は「リングプルを集めて車いすに、ペットボトルキャップはワクチンに」という活動を通じて、ごみ減量の意識をもつようになってきた。自分たちの生活に身近な資源回収に取組むことで、二酸化炭素削減など、環境問題について関心をもつ児童も増えている。これを学校内での取組にとどめず、家庭でも続けるという意識につなげたい。



収集したペットボトルキャップ



実施校からメッセージ

環境教育は工夫の仕方で様々な取組が可能です。エコライフレポートひとつをとっても、夏と冬とは違いがあり、楽しみながら授業とリンクさせて取り入れることができます。本校は環境教育に取組むための地域的な土台(川や衛生研究所など)が揃っているので、今後はそれらを活用した活動を組み立てていきたいです。